

電信寫

一四〇五五	（答）	昭和二十年三月八日	時二〇分	級
一四〇八四	（答）	昭和二十年三月八日	時二〇分	級

西大、支、タイ大、滿大、  
 緬大、北京、上海、廣東

佛印處理ニ伴フ輿論指導ニ關スル件  
 會第九號（別電） 館長符號 大至急 國家機密

電光大東亞大臣

S 1.7.0.0 - 54

421

東京二〇九

電信寫

一四〇四九	（答）	昭和二十年三月八日	時二〇分	級
一四〇五四	（答）	昭和二十年三月八日	時二〇分	級

西大、支、タイ大、滿大、  
 緬大、北京、上海、廣東

電光大東亞大臣

佛印處理ニ伴フ輿論指導ニ關スル件  
 會第八號 館長符號 大至急 國家機密

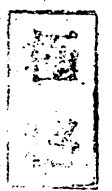
「佛印カ全圖的ニ我カ要求ヲ受諾シタル場合ニ於ケル輿論指導  
 ニ關スル件」及「佛印カ我カ要求ニ應セス武力ヲ行使シタル場  
 合ニ於ケル輿論指導ニ關スル件」夫々別電會第九號及別電會第  
 一〇號ノ通り決定セルニ付（國務外大東亞國務院）右ニ依リ  
 御措置相成度

本電以ニ別電宛先 西大、支、タイ大、滿大、緬大、北京、上  
 海、廣東

S 1.7.0.0 - 54

420

東京二〇九



佛印カ全面的ニ我カ要求ヲ受諾シタル場合ニ於ケル  
輿論指導材料ニ關スル件  
昭和二十一年七月二十九日

一、佛印カ全面的ニ我カ要求ヲ受諾シタル場合ニ於テハ誇大ニ報道ス  
ルコトヲ避ケ現地ニ於ケル輿論發展ヲ基礎トシ輿論指導ヲナスモ  
尙左記諸點ニ留意スルモノトス

(一) 昭和二十一年七月二十九日「ヴィシー」ニ於テ著名セフレタル日  
本紙「フランス」新聞議定書ニ依リ「フランス」國ハ印度支那  
ノ共同防衛ノ爲メ協定ト軍事上協力ヲ爲スヘキコトヲ約シタルヲ  
以テ爾來佛印ハ終始一貫誠意ヲ以テ印度支那ニ於ケル佛國官憲  
及軍隊ト協力シ同方面ノ防衛ニ努メ來レルコト

(二) 然ルニ敵ノ東亞侵略ノ企圖ハ愈々露骨トナリ米軍ハ既ニ印度支

那ニ對シ現實ニ攻撃ヲ加ヘ來リ今ヤ戦局ハ一刻モ印度支那ノ防  
衛ヲ現狀ノ儘放置スルヲ許ササル情勢トナリ右非常事態ニ對處  
スルタメニハ日佛印間ノ共同防衛措置ヲ更ニ緊密強化スルノ必  
要ヲ生シタルコト

日依テ帝國政府ハ 月 日在佛印松本大使ヲシテ「ドク」  
總督ニ對シ所安ノ交渉ヲ爲サシメタル處同總督モ佛印共同防衛  
ノ大局的見解ヨリ日佛印間ノ共同防衛措置ヲ強化セントスル我  
方ノ見解ニ賛同シ之カ爲必要ナル措置ヲ即時實施スルコトトナ  
リタルコト

四 今次措置ハ帝國トシア軍事上必要ナル最少限度ニ止ムルコトト  
セルモノニシア爾今引續キ我ト協力スル現地官民ト相携ヘテ印

電信寫

徳意

一四一七五	一四一七五	昭和二十年三月八日三時	分	主
西大、支、イ大、通大 網大、北東、上海、廣東		徳意		
佛印越海ニ伴フ舞臺演藝ニ關スル件				
合議一〇條(別紙)		徳意		

度支加共同防衛ヲ完ウヤントルコト  
ニ注意スヘキ事項左ノ通

(一) 共同防衛強化ノタメ佛印側ノ航リタル指道ニ付アハ當局發表以外之ニ漏レザルコト

(二) 佛印各埠凡成ニ於テ我方カ佛印電線ヲ再編成シ又ハ右指道ニ付佛印双方間ニ衝突行ハレタリ等々記事ハ之ヲ綴道セザルコト

佛印カ扶カ要求ニ應セス武力ヲ行使シタル場合  
ニ於ケル輿論指導案  
ニ關スル件  
昭和二〇・三・三十一

一、方針

今以帝國カ印度支那ニ於テ採リタル借債ハ佛印側ノ不信義ニ依リ已  
ムヲ持ス早猶印度支那即或ラ防衛スルタメノ緊急借債ニシテ其意  
ルモノニ非ス、爾後帝國ハ大東亞共同宣言ノ趣旨ニ則リ印度支那  
民ト協力シ其ノ民族ヲ獨立ノ途ニ支援シ印度支那ノ防衛ヲ全ウセ  
ントスルモノナルコトヲ強調シ以テ帝國ノ公正ナル意圖ヲ中外ニ闡  
明ス

二、要項

一、本件指導指導ニ當リ強調スヘキ點左ノ通

〔昭和十六年七月二十九日一〇時三十分〕ニ於テ署名セラルル日  
本國「フランス」國間議定書ニ依リ「フランス」國ハ印度支那  
ノ共同防衛ノ爲帝國ト車事ト協力ヲ爲スヘキコトヲ約シタルヲ  
以テ爾來帝國ハ帝局ノ推格ニ拘フス終始ニ貫誠意ヲ以テ印度支  
那ニ於ケル佛國言意及軍隊ト協力シ同方面ノ防衛ニ努メ來レル  
コト

〔然ルニ戰局ノ推移ニ伴ヒ漸次佛印側ハ其ノ態度ヲ變シ強固  
ニシテ從來同様ノ態度ヲ保持スル難前ラ際傍シツツモ遂ニ其  
度非協力的トナリ且後面ニ於テハ秘密カニ彼側ト懸念ヲ試ムル  
徴候者トナリ一旦緩急アル際佛印軍及皇局ノ両方ハ豫メテ

ヲ安スルモノアリタルコト

曰右事應ラ憂慮セル帝國ハ米次師印備ノ注意ヲ喚起シタルモ師印側ニ何等誠意ノ認ムハキモノナク他國米軍ハ既ニ印度支那ニ對シ現費ニ攻撃ヲ加ヘ來リ今ヤ戰局ハ一刺モ印度支那ノ防備ヲ境ノ偏放置スルヲ許ササルニ至リ加フルニ敵側ハ前述ノ師印局ノ心境ヲ利用シ有フェル謀略ヲ以テ印度支那ノ安寧秩序ノ破壞ヲ試ムル等事懸極メテ急迫セルヲ以テ帝國トシテハ師印當局ニ對シ萬一ノ事態ニ處スル師印當局ノ根本的態度ヲ明確ナラシムルコトヲ要請スルノヒムナキニ至リタルコト

四 依テ帝國ハ最後のニ師印當局ノ反首ヲ促スト共ニ具態度ノ決定ヲ求メ併セテ緊迫セル事態ニ對處スルノ準備ヲ整フル爲 月

日在師印松本大使ヲシテ「ドク」一連旨ニ對シ日英共同防

衛協定ニ基キ師印側ノ一層緊密ナル協力方ニ懸シ案ヲ具シテ要請セシメタルニ對シ師印當局ハ之ヲ拒否シ以テ師印當局カ帝國ト共同シテ米英側ノ侵襲ニ對シ印度支那ヲ防衛スルノ意思ナキコトヲ決定的ニ表示セルコト

四 茲ニ於テ帝國ハ師印當局ノ不信ノ結果單獨ニ印度支那ヲ防衛スルノ緊急状態ニ直面セルニ依リ直チニ師印軍隊等ニ對シ軍事上直ニヒムヲ待サル最少限度ノ緊急措置ヲ執ルニ至レルモノナルコト

四 帝國ハ爾今具ノ郷土ヲ防衛セントスル印度支那任氏ト協力シ且之ヲ支援シテ敵ノ反攻ニ對シ罷ク迄モ印度支那ノ防衛ヲ全ウセ

ントスルモノニシテ印度支那ノ領域自體ニ對シテハ勿論何等領土の企圖ヲ有セサルモノナルコト

(四) 帝國トシテハ大東亞共同宣言ノ趣旨ニ基キ印度支那任民ノ民族的獨立實現ノ要望ニ對シテハ全幅的ニ之ヲ支援セントスルモノナルコト

三、本件與論指導ニ當リ注意スヘキ點左ノ通

- (一) 帝國ハ佛印ニ於テビムヲ待サル必要ニ依リ緊急措置ヲ取リタルモノナルモ右ハ佛國自體ヲ敵國ト爲シタルモノニ非サルヲ以テ佛國ヲ敵國ト呼フ等ノコトハ之ヲ避クルコト
- (二) 從テ在本邦及在東亞佛國官民ニ付テモ原則トシテ之ヲ敵國人扱ヲナササルモノナルコト

S-1.7.0.0-54

430

(三) 「ベタン」及「ベタン」政府ニ對スル帝國ノ見解ニ付テハ之ニ觸レサルコト

(四) 「ドゴール」政權ニ對シテハ帝國トシテハ引續キ之ヲ無視スルモノニシテ從テ何政權ノ對日戰爭聲明等ニ付テモ之ヲ相手トセサル建前ヲ取ルモノナルコト

(五) 人種戰爭的ナル趣旨ハ之ヲ避クルコト、例ヘハ佛印ノ處理ニ依リ大東亞ヨリ白色人種ノ勢力カ完全ニ驅逐サレタリ等ノ趣旨ハナササルコト

(六) 佛國カ「フアン」系及「カトリック」系國家ノ中心ナル爭奪ニ當リ佛國及佛國民自體ヲ誹謗スルカ如キコトハ之ヲ避クルコト

S 1.7.0.0 - 54

431

(分類)

電 信 案	外 務 省	在 西 貢 松 本 大 使 館 在 在 大 區 範 電 報 中 号 機 電	電 送 第	號	主 管
			年 月 日	時 分	主任
合	第	三	〇	八	號
件	宛	在 大 島 大 使 館 在 山 田 大 使 館 在 仰 光 大 使 館	發 件 名	發 重 光 大 臣	昭和二十年三月八日 起草

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0 - 54

433

電信寫

號	一四〇四〇
符	昭 和 二 十 年 三 月 八 日 一 六 時 一 〇 分
主	廣 政

在 西 貢 松 本 大 使 館  
 佛 印 廣 運 決 定 解 釋 之 關 係 事 件  
 第 四 一 號 館 長 符 號 發 送  
 往 電 報 九 三 號 之 關 係  
 水 井 學 務 官 へ 申 渡 せ り  
 ソノ 後 上 村 政 務 局 長 總 務 長 結 果 事 務 局 長 へ 前 記 要 請 ノ 基 ナ ル コト  
 當 然 ニ 付 其 ノ 意 味 ニ ナ 佛 印 廣 運 決 定 解 釋 セ ラ レ 差 支 ナ 事 務 部 内 ニ 共 同  
 ア ラ 自 分 ノ 責 任 ヲ 以 テ 押 フ ヘ キ 旨 進 へ タ ル 趣 ナ リ 海 軍 備 力 一 部  
 配 一 ノ 意 味 ナ ル コト へ 當 然 ナ リ ト 爲 々 廣 運 決 定 解 釋 セ ラ レ 御 承 知 ノ 趣 ニ シ テ  
 本 件 へ 右 ニ 依 リ 解 決 セ ル コト 考 へ 履 せ り

重 光 大 使 館 大 臣

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54

432

電 信 省	外 務 省	在 西 貢 松 本 大 使 館 在 大 區 范 電 報 中 二 号 驛 電	暗電第 3756 號	主任
			昭和 年 月 日 時 分	電信課長
			件 20 各 宛	主任
			在 大島 大使 在 山田 大使 在 仰内 題	發 重光 大臣
合 第 三 〇 八 號			記錄件名	發 重光 大臣
(日本標準規格 B5)				
S 1.7.0.0 - 54 433				

電信省	昭和二十年三月八日 六時一〇分	主 應 啟
電報第一號	在 函 實 務 本 次 會 議	重光大臣 應 啟
任 重 光 大 臣 應 啟	本 件 右 記 各 宛 宛 達 せ ば 事 務 上 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等	
水 井 海 軍 省 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等		
ソノ 係 上 於 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等		
前 記 各 宛 宛 達 せ ば 事 務 上 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等		
本 件 右 記 各 宛 宛 達 せ ば 事 務 上 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等 領 事 館 領 事 長 官 官 人 等		
S 1.7.0.0 - 54 432		

REEL No. A-1216



外機密

電信寫

三六八二	昭和二十年三月六日	時廿分
五六八二	昭和二十年三月六日	時廿分

記帳簿

在北京 楠本公使

重光外務大臣

第一一號 館長符號 緊急

（在北京佛國大使館ノ本國トノ聯絡ニ關スル件）

確實ナル情報ニ依リハ其地佛國代理大使「マルジュリー」ハ本年  
末頃ヨリ何等カノ方法ニ依リ在瑞西佛國代理公使「Vange」トノ連絡  
ニ成功シ本年一月初メヨリハ每週一回位在支佛國權益等ニ付報告  
ヲ爲シ瑞西ヨリ更ニ佛本國ノ「ドモール」銀政府外務省ヘ電報セ  
シメ居ルコト確實ナリ在瑞西代理公使ヨリモ時ニハ本國外務省ノ  
知人ヨリノ傳言ヲ轉達シ來リ居ルカ如ク右ハ如何ナル方法ニ依リ  
居ルヤ判明セサルモ

(4) 大使館無電報ニ依リ居ルモノトモハ在瑞西代理公使ノ方ヨリ電  
報アル點ハ不可辨ニシテ

S 1.7.0.0 - 54

434

REEL No. A-1216

0544

アジア歴史資料センター

第一般公衆電報ニ依リ在瑞國領内代通公使ニ宛テ直接傳聞暗  
 號ニ依リ發受信ノ届ルモノトシテハ貴地電報局又ハ華北電々送  
 リニテ判明スヘキ  
 第二「マ」カ貴地瑞國領代表者ニ依テ瑞國領暗號ニテ瑞國政府  
 ノ通シ同シク一般電報ニテ通信ノ届ルモノトシテハ瑞國領暗號  
 ノ解讀セサル限リ判明セサル次第ナルカ  
 第三何等カ他ニ連絡ノ方法アルヤモ知レヌ  
 右點對極秘ニシテ各々傳聞ニハ絕對ニ禁附ガレサル様ニ調査ノ  
 方法アラハ大至急調査ノ上右連絡ヲ止ムル方法ノ有無ト共ニ折  
 返シ電報アリ候  
 支、西貢へ轉電ナリ



極秘

王官

昭和二〇 五三一五五 附 四頁 三月七日二三五〇 附  
本省 七月二四〇〇 着

車光大東亞大臣

松本大使

大東亞 各大臣宛第二号能長付郵緊急  
外務 (御印處理尚懸)

郵長符號電 号二三號ノ三ニ關シ

九日(金曜) 日本時間午後七時總督官邸ニ於テ世曾ノ答尙說明  
一、アルファレハ同一時間ノ決定

政務印  
ニ詳キ

電信寫

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

436

大東亞省

極秘

電信寫

大東亞省

昭和二〇 五三一〇六 暗 西貢 三月七日一四〇〇 附  
本管 七月一四三〇 着

車光大東亞大臣

松本大使

第一〇號(館長符號、不緊急)

(御印處理ニ關スル件)

草調ニ於テハ横山文化會館長モ現身分ノ應活動センコトヲ希望シ后  
リ又日語普及其ノ福文化工作ハ依然トシテ重要ナルニ付此ノ際文化  
會館ハ是非共現在ノ處存続セシメ應キ度キニ付右御承知願キ結成度

(了)

第一局長

第二局長

電信寫

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54

437

REEL No. A-1216

0546

アジア歴史資料センター

(分類)

3843

電 信 案	帝 國 政 府 外 務 省	任 後 石 才 三 〇 二 号 二 周 〇	第 二 六 號	電送第 3844 號	主管
				昭和20年3月 日 時 分	主任
				件名宛	西貢 松本大使
				配録件名	發 重光大臣

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0 - 54

438

電信局長

發電係

記録済

昭和二十年三月八日起草

8. 26

REEL No. A-1216

外機密

電信寫

法 香 號 三八四三 三八四四	符 號 昭和二十年三月八日十一時	主 管 政 二
-----------------------	---------------------	------------

記帳済

西貢 檢本大使

重光外務大臣

第二六號 緊急・簡便符號

( 特別電報 )

往電合第三〇二號ト送ル

傳譯左ノ通り

DECLARATION DU GOUVERNEMENT JAPONAIS CONCERNANT

L'INDOCHINE.

Le Japon, en conformité avec les engagements vis-à-vis de la France pour la défense en commun de l'Indochine, n'a jamais cessé de coopérer avec les autorités civiles et militaires françaises en Indochine pour la défense de ladite région.

Récemment pourtant, avec le développement de la situation de

439

B 1.7.0.0 - 54

REEL No. A-1216

0545

アジア歴史資料センター

guerre, un changement graduel s'est opéré dans l'attitude des autorités françaises sur place; elles finissent par manquer à être plus disposées à effectivement défendre en common l'Indochine contre les attaques américaines, anglaises et autres. Le représentant japonais a cherché à maintes reprises, à obtenir d'elles un revirement de leur attitude, mais en vain; les forces japonaises ne voient maintenant obligés de défendre seuls l'Indochine contre l'imminence de l'invasion ennemi. Dans ces circonstances, les forces japonaises sont déterminées à garantir les autorités locales de caractère hostile et à prêter assistance à celles qui coopèrent avec le Japon; il s'efforcent ainsi d'atteindre, de concert avec ces dernières, le but de défendre l'Indochine.

Ce sont des mesures que le Japon a été obligé de prendre pour les raisons de nécessité militaire; leur application sera limitée au minimum. Il va sans dire que, vis à vis de l'Indochine, le

Japon n'entrelient aucun vif de territoire.

Le Gouvernement Japonais déclare qu'il est prêt à accorder toute assistance possible aux habitants de l'Indochine qui défendent leur sol contre les envahisseurs de l'Asie Orientale et que, fidèle aux principes de la Déclaration Commune de la Grande Asie Orientale, il accorde un appui complet à ses habitants lorsqu'ils se voient opprimés en vue de la réalisation de leur aspiration vers l'indépendance nationale.

S 1.7.0.0 - 64

441

REEL No. A-1216

0550

アジア歴史資料センター

DECLARATION DU GOUVERNEMENT JAPONAIS CONCERNANT

L'INDOCHINE.

Le Japon, en conformité avec les engagements vis-à-vis de la France pour la défense en commun de l'Indochine, n'a jamais cessé de coopérer avec les autorités civiles et militaires françaises en Indochine pour la défense de ladite région.

Récemment pourtant, avec le développement de la situation de guerre, un changement graduel s'est opéré dans l'attitude des autorités françaises sur place; <sup>elles</sup> qui finirent par manquer <sup>n'être plus disposées à effectivement défendre</sup> de traduire en action l'esprit de la défense en commun <sup>de l'Indochine contre</sup> devant les attaques américaines, anglaises et autres.

~~sur l'Indochine.~~ Le représentant japonais a cherché à maintes reprises, à obtenir d'elles un revirement de leur attitude, mais en vain; les forces japonaises se voient maintenant obligées de défendre seules l'Indochine contre l'imminence de l'invasion ennemie. Dans ces circonstances, les forces japonaises sont déterminées à écarter les autorités locales de caractère hostile et à prêter assistance à celles qui coopéreront avec le Japon; <sup>elles</sup> s'efforcent ainsi d'atteindre de concours avec ces dernières, <sup>elles</sup> le but <sup>de la défense de</sup> l'Indochine.

Ce sont des mesures que le Japon a été obligé de prendre pour des raisons de nécessité militaire; leur application sera limitée au minimum. Il va sans dire

S 1.7.0.0 - 54

443

que

que, vis à vis de l'Indochine, le Japon n'entretient aucune visée territoriale.

Le Gouvernement japonais déclare qu'il est prêt à accorder toute assistance possible aux habitants de l'Indochine qui défendent leur sol contre les envahisseurs de l'Asie Orientale et que, fidèle aux principes de la Déclaration Commune de la Grande Asie Orientale, il accordera un appui complet <sup>à ces habitants longtemps opprimés</sup> pour la réalisation de leur <sup>vers</sup> aspiration <sup>longtemps opprimée</sup> à l'indépendance nationale.

S 1.7.0.0 - 54

442



(分類)

電 信 案	於 レ 帝 國 政 府 聲 明 文 英 訳 左 通	日 電 報 セ ル 仙 仰 側 カ 我 方 要 求 ヲ 拒 絶 セ ル 場 合 ニ	暗	電送第 3889 號	主管
			平路	昭和 26 年 3 月 8 日 午後 2 時 0 分發	主任
外 務 省			合 第三〇二 號	件 名	獨 逸 支 滿 泰 西 貢
				配録件名	重 光 大 臣

電信課長

發電係

昭和 26 年 3 月 8 日 起草

記帳済

8 24

20.2.26  
 大本營 仙仰側以外  
 要中の陪「(0)先ず  
 以て同案外有るに  
 對す中絶はせおす  
 4の松本大使に社し  
 洲に之を尋ねし如し

(日本標準規格B5)

444

8 1.7.0.0 - 54

REEL No. A-1216

外機密

電信寫

通 番 號  
三三八八  
三三八八  
三三八九  
附 符  
昭 和 二 十 三 年 三 月 八 日 後 二 時 分 二  
主 敏 管

重光外務大臣

獨・蘇・支  
喃・タイ・西貢  
ビルマ各大使

合 第 三 〇 二 號 簡 長 符 號 發 給

( 傳 印 處 理 )

後ニ電報ナル傳印備カ我方ノ要求ヲ拒絶ナル場合ニ於ケル帝國政  
府聲明文英譯左ノ通り

STATEMENT OF THE JAPANESE GOVERNMENT  
CONCERNING INDO-CHINA

In accordance with agreements entered with France concerning the  
common defense of Indo-China, Japan has consistently cooperated with  
the French civil and military authorities in Indo-China for the  
defense of the said region.

記帳簿

445

B 1.7.0.0 - 84

REEL No. A-1216

More recently, however, with the development of the war situation, a gradual change has taken place in the attitude of local French authorities, so that they have come to fail to translate into action the spirit of common defense in the face of attacks upon Indo-China by American, British and other.

The Japanese representative has from time to time urged reconsideration upon them but to no avail, so that the Japanese forces now find themselves obliged to defend Indo-China singly against the enemy, who is pressing close upon the region.

It means that for the defense of Indo-China, the Japanese forces are determined to attain their objective by rejecting those who are of enemy character but by extending assistance to such local authorities as will cooperate with Japan.

The above is a measure Japan, much against her desire, has been compelled to adopt by military necessity and its application shall be limited to the minimum extent. It goes without saying that regarding

2

Indo-China, Japan entertains no territorial designs, and the Japanese Government desire to declare also that they are prepared to render all possible assistance to the inhabitants of Indo-China engaged in the defense of their homeland against the invaders of Eastern Asia, and that in consonance with the principles of the Greater East Asia Joint Declaration full support shall be accorded to their long-suppressed aspiration to achieve national independence.

S 1.7.0.0 - 54 447

REEL No. A-1216

0555

アジア歴史資料センター

極秘

第一課長

電信課長

大東亞省

昭和二〇 五三一九二 附

西貢 三月八日一八三〇發  
本省 八日一九三〇着

松本大使

暹光大東亞大臣

第一一號(大至急、館長符號)

(佛印處理問題(現地機構ノ件))

館長符號貴電第三一號ニ關シ

一、大使府員ノ配置ニ付軍側ト協議ノ結果今日迄ニ別電館長符號第一

二號ノ通決定セリ

三、不取敢變動ニ先立テ軍側ト事後ノ工事ニ付充分打合ノ上横山顧問

小長谷總領事(兩人聯絡ノ爲當地ニ出張三月五日來着セリ)及渡

邊領事ヲ「ユエ」ニ又久保田總領事ヲ「ブ」ノ「ペン」ニ夫々派遣

セリ

三河内及西貢總領事館ハ夫々小長谷總領事及河野總領事ヲ館長トシ

テ領事事務ノ責任者トシ

電信寫

第二課長

S 1.7.0.0 - 54

448

電信寫

2

名ヲ館長トシテ指定方御取計相成候  
與他ノ大使府員ニ付テハ目下ノ情勢ニ於テ確定困難ニ付進テ決定候  
報ス  
別電ト共ニ河大へ轉電セリ

大東亞省

東京 四月廿七

S 1.7.0.0 - 54

449

REEL No. A-1216

0557

アジア歴史資料センター

極秘

王管 總領、文總

昭和二〇 五三一八五 噴 上海 三月八日一四〇〇發  
本省 八日一七〇〇着

嵐光大東亞大臣 豊田總領事

第一二六號（大至急、館長符號扱）

（對佛國指置ニ關スル件）

在電第一〇九號ニ關シ

對佛國指置中ニハ當地佛外交機關ニ對スル處直等當方ニ於テ適當ニ  
ヘキ部面モアルヤニ聞及ヒアルニ付テハ具體的處置振リ大至急御回  
示相成度  
外務大臣ヘ轉報アリタシ  
支ヘ轉報セリ

電信寫

大東亞省

S 1.7.0.0 - 54

450

極秘

電信課長

大東亞省

昭和二〇 五三二二〇 暗 西貢 三月八日二〇四〇發  
本省 九日一〇一〇着

嵐光大東亞大臣 松本大使

第一三號（館長符號、大至急）

（佛印處理問題（現地機構））

在電館長符號第一一號ニ關シ

「ルアン普拉バン」王國顧問兼「ラオス」理事長官事務管掌ハ未決  
定ナルカ内田五郎前參事官邊リ至極適任ト存スル處同人ニ異存無ク  
ハ軍側ト交渉致度ニ付至急同人ノ内意御確メノ上御回電アリ度

（了）

電信寫

第二課長

課長

S 1.7.0.0 - 54

451

3903

3904

3905

(分類)

電 信 案	1 邊 通 方 概 要 左 1 通	米 英 軍 の シ リ ヤ に 関 し 他 佛 領 に 侵 入 し る 場 合	員 電 長 第 一 九 号 に 関 し	第 二 七 号  ( 館 長 符 号 )	電送第 3906 號	主管
					昭和 26 年 3 月 8 日 起草	主任
外 務 省					件名	宛
					記録件名	發
					佛 印 延 現 面 三 件	在 西 貢 松 本 大 使
						重 光 大 陸

電信課長

發電係

昭和 26 年 3 月 8 日起草

9 19



(日本標準規格 B5)

S 1.7.0.0 - 64

452

REEL No. A-1216



3903  
3904  
3906

(分類)

電 信 案	1 邊方根原左一通	米英軍のシリヤ其他佛領ニ侵入ニ場合	貴電長才一九号ニ関シ	第 二 七 號	電送第 3906 號		主管
					昭和 20 年 3 月 8 日起草	主任	
外 務 省				件名	宛		
				佛印延現ニ関スル件	在 西貢 松本 次使		
				記録件名	發		
				(館長 務 長)	重光 次使		

昭和 20 年 3 月 8 日起草

9 19

記帳済

(日本標準規格 B5)  
S 1.7.0.0 - 54 452



REEL No. A-1216

0560

電信案

外務省

ヲ阻止シ米大陸ニ対シ起軸軍、攻勢場、  
 合軍ノ作戦ハ其阿及西阿ニ対シ起軸軍ノ兵  
 (二) 業阿。同年十一月廿日米大統領ハ合  
 兵取リ。  
 英側措置ヲ具述シ「ブー」政界ノ対英協カ  
 使用スルヲ防止スル為「リット」米日務長官ニ  
 此ニ対シ「リット」米軍ノ同地ヲ作戦基地トシ  
 英領海軍ノ活動ハ「リット」米軍ノ活動トシ

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0 - 54 454

電信案

外務省

「リット」米軍。一九四一年五月英「ラッ」  
 給付スル「英領海軍」在給軍中「英ハ」  
 リヤ「リット」米軍基地ヲ利用シ「メタリット」  
 地方ニ據守「リット」米軍「リット」米軍  
 「リット」米軍及「リット」米軍「リット」米軍  
 キ「リット」米軍「リット」米軍「リット」米軍  
 「リット」米軍「リット」米軍「リット」米軍  
 「リット」米軍「リット」米軍「リット」米軍

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0 - 54 453

電信案

設置の旨説明をうけたが、この間に米口務處の  
 駐米領事便に於て米口務處の設置に全幅的承  
 認と支持をうけたるに、若し米口務處の設置に同  
 意して使用されるべき理由が生じれば、場合により  
 一時的に使用される踏踏をうけたるに、  
 牛交せりト傳へられ、更に同月、島に於て作  
 成行脚、海軍のあり、英陸軍あり、  
 外務省

(日本標準規格 B5)

8 1.7.0.0 - 54

456

212

電信案

設置の旨説明をうけたが、この間に米口務處の  
 駐米領事便に於て米口務處の設置に全幅的承  
 認と支持をうけたるに、若し米口務處の設置に同  
 意して使用されるべき理由が生じれば、場合により  
 一時的に使用される踏踏をうけたるに、  
 牛交せりト傳へられ、更に同月、島に於て作  
 成行脚、海軍のあり、英陸軍あり、  
 外務省

(日本標準規格 B5)

8 1.7.0.0 - 54

455

電信案  
外務省  
陸上無線電政府、この島嶼總督の許可島嶼の  
基地並に施設が犯細則に利用せらるゝ阻止せん  
要な場還り英軍司令官に許可するに依り要望の  
カインー政府の態度は英、要なり平和種と達成  
の許可が遂に再度軍手し御之許り、この島嶼  
レリむ又英政府は同島の海上の野に有る  
モニン水かーとに取去るべき、電表を有る米日務

電信案  
外務省  
省に如黄、協定之全幅、整理意ヲ表スルを、吉備  
(回) マルチニツク。 並に上陸、米日、マルチ  
島、カインー政府より、離脱するに合符、禁断其  
他、在り場還り平和種に取リ所り、口カインー  
カインー政府の要望、マンカインーを、一九四三年四月  
三十日半政府の合符、カインー政府の経歴、及同  
政府の、<sup>直轄</sup> 離脱するに、西印度諸島、代表和

(分類)

電 信 案	ト ム リ by America, Britain and others the Japanese forces inc.	才 一 節 中 attacks upon India China by American, British and others	往 電 后 才 三 〇 二 号 二 国 二	暗	電送第	號	主管
				平略	昭和二十年二月三日	時	分發
外 務 省			合 第 三 〇 四 號	件	名	宛	主任
				配録件名	發	重光大使	昭和二十年二月九日起草

(日本標準規格 B5)

8 1.7.0.0 - 54

460

3908

3914

電信課長

一發電係

9 21

記帳済

電  
信  
案

外  
務  
省

於此レ電報管理ヲ要スルアリク想テ  
 解及傳内飛打機、武裝解除及押込即漢  
 軍用  
 伊函ヲ公表スルニ決シ米日ハハ島ニアル伊軍  
 二トレ米日總領事ハ之ヲ召還スルヲ表セル  
 慶幸ニ爾來日本島ニ因テ向テハ地軍者ノ午ニ務  
 且其結果、此結果ト、同ニ締結スル一切、即定  
 以承認スル事ト、交渉ヲ停止スルハナキ言明  
 也

(日本標準規格 B5)

8 1.7.0.0 - 54

459

REEL No. A-1216

(分類)

電 信 案	本件要本提示、為松平右衛門、三月日	外 務 省	号二四一	シカ往電第 五二号、五 猪宛往電第 一四一	暗 第	電送第	主管	電信課長
						年 月 日 時 分	主任 第二課長	
						件 名	宛	發電係
						伊内閣	在 猪 大島 右及 在 ソ 佐藤 右及	
						配録件名	發 重史下及	昭和廿一年三月 日起草

(日本標準規格 B5) S 1.7.0.0 - 54

462

電 信 案	To obtain these objectives... the Japanese forces have recovered = 訂正、可及	外 務 省	No. 241	シカ往電第 五二号、五 猪宛往電第 一四一	暗 第	電送第	主管	電信課長
						年 月 日 時 分	主任 第二課長	
						件 名	宛	發電係
						伊内閣	在 猪 大島 右及 在 ソ 佐藤 右及	
						配録件名	發 重史下及	昭和廿一年三月 日起草

(日本標準規格 B5) S 1.7.0.0 - 54

461

REEL No. A-1216

0565





三八九〇

昭和二十年三月九日午後二時發

政二

在 大島大使

蘇 佐藤大使

重光外務大臣

合第三〇三號 緊急、館長符號、部外秘

(封印處理ニ關スル件)

發往東京第一四六號及蘇往東京三五二號ニ關シ

我が要求ニ對スル封印條ノ諾否ハ目下ノ見込ニテハ九日日本時間

午後十時一二〇〇頃ニハ現地ニ於テ確定スヘク從テ十日未

明ニハ當方ヨリ對方ニ電報シ得ル筈ナリ

本電宛先 蘇及蘇

B 1.7.0.0 - 54

466

電信案

外務省

（三三〇〇）因ニ現地ニ於テ確定スヘク十日未  
 明ニハ當方ヨリ對方ニ電報シ得ル筈ナリ  
 本電宛先 蘇及蘇  
 重光外務大臣

（日本標準規格B5）

B 1.7.0.0 - 54

465





外機密

三三九五四  
三三九五六  
昭和二十年八月九日 午後六時 分  
主 政 二

在 衛 大島大使  
鮮 佐藤大使  
滿 山田大使

重光外務大臣

第三〇八號

(佛印問題)

在 西 真松本大使 歐大東亞大臣 郊電報 第二號轉電  
塚本ニ對スル佛督府外交部長ノ談話要領左ノ通り  
「今因「ラオス」ヲ繼テ南下セルカ各所ニ日本軍ノ進駐アリテ佛  
督ニ於テモ奇異ノ感ニ打タレキル模様ナリ我等一國侵攻ニ備フ  
タメナルコトハ克ク理解シ居リ亦日本軍ノ規律嚴正ナルヲ以  
テ進駐其レ自身ニ對シテハ何等反對スヘキ理由ハナキモ政治的  
ニハ増兵カ印度支那ノ脅威トナリ居ルニ付日本政府力之ヲ軍  
的ト同時ニ政治的ニモ考慮セラハルルコト望ムニ堪ニス

電信寫

「ドゴール」政府カ佛印ニ自治ヲ許與スヘキ旨ノ情報アルモ右  
ハ公ノ重寶ニアラス客年末開カレタル「ブラツヰイル」會議  
ニ於ケル佛領民並金税ノ問題ニ由來スルモノニシテ自治ヲ佛印  
ニ對シ許與スル理由ハ關稅獨立等ノ技術的均田ニ基キ唱導セラ  
レ居ルモノニシテ何等日本軍増駐等ノ問題ト關係ナシ  
三我々ノ米軍來ラストナス主張ニハ何等根據アル譯ニハアラス「  
ソン」ノ食糧問題解決ヲ計リ米ヲ交趾支那ニ求ムル爲侵攻シ東  
ルコトモ考ヘラレ日本軍ノ「アレコーション」ニ付テハ充分理  
解シ居レリ  
四自分ハ最モ對蘇關係ヲ重視シ居ルモノニシテ「ドゴール」故佛  
カ蘇聯ニ對シ佛印問題ヲ以テ對日軍制ヲ要スルコト最モ可能性  
多ク蘇聯極東ニ對シ武力的進出ハ行ハサルヘキ進出シ來ルヘ  
ク又外交的ニハ米軍日本軍ニ對シ侵攻スルニ蓋ラハ蘇聯ハ日本ニ  
「アプローチ」スルモノト考テ了

外機密

三九〇三  
三九〇四  
三九〇五  
三九〇六

一階

昭和二十年三月九日午後四時發

政二

松本大伴

重光外務大臣

第二七號 郵政符號抜

一編印處理ニ關スル件

郵政第一九號ニ關シ

米義勇カ「シリヤ」其ノ他他領ニ侵入セル場合ノ進方概要左ノ通  
「シリヤ」一九四一年四月、五月ノ「イラグ」ニ於ケル紛争中  
英ハ領有ニ「シリヤ」ニ於テ空軍基地ヲ利用セシメタリト稱  
シ領地ヲニ短縮ヲ加ヘタルコトアリタルカ六月五日ニ至リ「シ  
リヤ」及「レバノン」ヲ敵占領地トシテ取扱フヘキ旨發表シ  
駐地城ニ對シ封鎖ヲ行フト共ニ同地ニ大軍ヲ集結シ八日遂ニ下  
「シリヤ」ニ進軍セル態

B 1.7.0.0 - 54 469

右ニ當リ英政府當局ハ軍事カ同地方ヲ作戦基地トシテ使用スル

ヲ防止スル爲ナリト稱シ又米國務長官モ右英英措置ヲ是認シ「

イン」政府ノ對英協力ヲ非難セリ  
北阿、同年十一月八日北阿上陸ニ際シ米大統領ハ今英聯合軍ノ

作戦ハ北阿及西阿ニ對スル極端軍ノ占領ヲ阻止シ米大陸ニ對ス

ル極端軍ノ攻襲據點ノ進定ヲ防クヘク計畫セラレタルモノニシ

テ同地ニ蘇聯ニ對シ第二戰線ヲ援助ヲ提供スルモノナリ聯合軍

ハ領土ヲ侵スル又友誼的ナル在阿領當局ニ干渉スルノ意圖ヲ有  
セサルコトヲ英政府民ニ保證セル旨聲明セリ  
一九四二年四月末英軍「マダガスカル」島「デイエゴスアレ

ス」嶺占領ニ際シナモ石ハ海軍艦ノ同島上陸ニ對スル防禦的措  
置ナル旨説明セタルカ石ニ關シ米國務當局ハ駐米英大使ニ  
對シ米ハ英ノ措置ニ全幅的承認ト支持ヲ與フルモノニテ若シ米  
陸海軍ニシテ同島ヲ使用スル妥當ナル理由カ生セル場合ハ何

B 1.7.0.0 - 54 470

時ニテモ之ヲ使用スルニ躊躇セサル旨認メタル文書ヲ手交セリ  
 ト傳ヘラレ吏ニ同九月「マ」島ニ對スル作戦行動ノ再開ニ當リ  
 英陸軍當局ハ「デイエゴスアレス」港占領後英政府ハ「マ」島  
 總督ニ對シ島内諸基地並ニ諸施設カ樞軸ニ利用セララルルヲ  
 阻止スルニ必要ナル措置ヲ英軍司令官ニ許與スル様望セルカ  
 「ヴィンシー」政府ノ態度ハ英ノ要求ヲ平和裡ニ達成スルヲ許サ  
 ス遂ニ再渡軍事行動ニ訴フルノ已ム無キニ至レリ尤モ英政府ハ  
 同島ニ對シ領土割野心ヲ有スルモノニ非サルコトヲ確言スル  
 旨ノ發表ヲ島シ米國務省モ 英ノ措置ニ全幅ノ賛意ヲ表スル旨  
 聲明セリ  
 「マルチニツク」北阿上陸ニ伴フ米佛國交斷絶ノ結果米國ハ  
 「マルチニツク」島ノ「ヴィンシー」政府ヨリノ離脱ヲ策シ食糧  
 禁輸其ノ他ノ緊迫措置ヲ執リ居リタルカ「ロペール」總督ノ懸  
 念ヲ發見セシムルニ至ラス遂ニ一九四三年四月三十日米政府ハ

今後「ヴィンシー」政府ニ從順乃至同政府トノ連絡ヲ維持スル西  
 印度諸島佛國代表者ヲ承認セス亦之トノ交渉ヲ停止スヘキ旨言  
 明シ且其ノ結果「ロ」總督トノ間ニ締結セル一切ノ協定ヲ廢棄  
 シ爾來同島ニ關スル問題ハ海軍省ノ手ニ移スコトトシ米總領  
 事ハ之ヲ召還スル旨發表セルカ佛領ヨリノ公表ニ依レハ米國ハ  
 「マ」島ニアル佛軍艦及軍用飛行機ノ武装解除及佛領西印度ニ  
 對テル米ニヨル通信管理ヲ安水シ居リタル趣ナリ

電信寫

一四三八二

昭和二十年三月九日

二時一分

南政

在函實 松本大使

東京大東亞大臣

現地軍司令官ノ布告文電報方ノ件

第四三號 館長符號 緊急

武力展開ノ機會得ぬ政府聲明發表ノ手續上多少時間ヲ要スルヲ以テ其レ迄ノ間現地軍司令官ノ布告ヲ海外放送等ニ利用シ度キニ付右布告文ヲ豫メ前方ニ大亞細亞電報アリ度

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54 474

電信寫

一四三八〇

昭和二十年三月九日

九時一分

南政

在函實 松本大使

東京大東亞大臣

在鼠安南獨立運動者ノ取扱ニ關スル件

第四二號 館長符號 不至急

佛印總理ノ勸告現地軍ニ於テハ在鼠安南人獨立運動者ハ差遣リ之ヲ利用セサル考ナルニ於テハ相當ノ期待ヲモチテ活動ヲ開始スヘク其ノ指導ヲ必要トスルニ付車調トモ御打合ノ上在鼠者ハ殊ニ「コンテール」ノ取扱ニ關スル實見成ルヘク速ニ御返電アリ度

東京二〇九

S 1.7.0.0 - 54 473

REEL No. A-1216

電信寫

一四三八二

昭

昭和二十年三月九日 二一時

分 南 政

在 廣 官 公 本 大 使

重 光 大 東 亞 大 臣

現 地 軍 司 令 官 ノ 布 告 文 電 報 方 ノ 件

第 四 三 號 館 長 符 號 緊 急

武 力 處 理 ノ 協 會 帝 國 政 府 聲 明 發 表 ハ 手 續 上 多 少 時 間 ヲ 要 ス ル ヲ 以  
テ 其 レ 迄 ノ 間 現 地 軍 司 令 官 ノ 布 告 ヲ 海 外 放 送 等 ニ 利 用 シ 度 キ ニ 付  
右 布 告 文 ヲ 諒 メ 官 方 ニ 不 妥 急 電 報 ア リ 度

東 一 〇 九

S 1.7.0.0 - 54 475

電信寫

一四四六三六六  
一八五七十六六  
一四三二八五七

昭 和 二 年 三 月 九 日 十 七 時 十 分

主 總 務

支、タイ 各大使

重 光 大 東 亞 大 臣

佛 印 廣 理 ニ 關 ス ル 件

合 第 一 號 館 長 符 號 大 緊 急

往 電 合 第 三 號 等 ニ 關 シ

「佛 印 廣 理 カ 我 方 要 求 ニ 應 ジ サ ル 場 合 ニ 於 テ モ 我 方 ハ 單 獨 ニ 印 度  
支 那 ヲ 防 衛 ス ル タ メ 巴 山 ヲ 得 サ ル 緊 急 演 習 ヲ 取 ル モ ノ ニ シ テ 佛  
國 ヲ 敵 國 ト 認 ム ル ヲ ノ ニ 非 ス 從 テ 佛 國 人 財 産 ハ 之 ヲ 敵 國 人 及 敵  
國 ト シ テ 取 扱 ハ ヲ ル ヲ ノ ナ ル コ ト ハ 既 ニ 往 電 合 第 四 號 佛 國 カ  
カ ト リ ヲ ク」 系 「ラ タ ン」 國 家 中 ノ 大 論 ニ シ テ 同 國 民 ニ 對 ス ル  
我 方 ノ 意 見 如 何 カ 爾 後 ノ 「カ ト リ ヲ ク」 及 「ラ タ ン」 系 國 家 ノ  
同 國 人 及 他 國 人 大 ナ ル コ ト 佛 國 ノ 同 盟 國 係 ニ 關 シ 在 東 亞 佛 國  
人 ノ 取 扱 如 何 ニ 對 シ テ ハ 佛 國 カ 例 等 カ ノ 口 實 ヲ 設 ケ テ 結 核 ス ル

東 一 〇 九

S 1.7.0.0 - 54 476



用銀性無シトモサハコト無即ニ於テ補後ノ行銀ニ一部無國人ヲ  
 利用スルコト得策ナルコト等ノ疑點ヨリシテ在東亞諸國官民及  
 極端ニ對スル取扱ヘ出來得ル限リ之ヲ重大トスルコト適當ニシ  
 テ其ノ見地ヨリシテ附記「政府處理要政」ノ基本トナル二月一  
 日最高級參事會議決定「情勢ノ變化ニ應スル印支關係ニ關ス  
 ル件」ニ於テモ「一般無國人、極端等ニ對シテハ務メテ強硬ニ  
 取扱フモノトス」トノ注意アリ又「印支關係ニ伴フ在大東亞  
 諸國官民權益取扱要政」ニ「印支關係ノ局力薄弱ノ要求ヲ受諾セサ  
 ル場合ト雖モ極端官民及極端ノ取扱ハ無信許ス限リ重大ニス」  
 ル旨記載シアルモ右事情ニ基テ大東亞ナルニ付極端ニアリ度ク殊  
 ニ最近ニ於ケル蘇俄ノ親善關係ヲ考慮シ蘇俄ニ口實ヲ與ヘサル  
 極端留意アルト共ニ「カトリック」關係ニ付テハ特ニ慎重ヲ期  
 セラレ候

三任電台第一〇號「與國指導ニ關スル件」中ニハ特ニ直及シテ  
 サルモ我方カ在支佛國軍隊ヲ武装解除スル等々ニ關シテハ酌

東京三〇九

大ニ報道セラルルヲ避ケ成ル可ク目立タル極取扱ハレ度  
 本電宛先 支、タイ、暹、緬各大使  
 函真(大)、北京、上海、瀋陽ヘ轉電セリ

東京三〇九

一四二〇一〇三  
 一八三七  
 一八三八  
 昭和二十年三月九日十時十分  
 主 兩敵

在タイ 山本大使

暹光大東亞大使

佛印處理ニ件ヲ對シ「タイ」編纂ニ關スル件  
 第一四號 局長符紙 緊急

往電第一〇號ニ關シ  
 武力處理ノ場合「タイ」側ノ印度支那ニ於ケル失地恢復問題ニ付  
 テハ我方トシテ慎重考慮致度キ所存ナルカ先方ヨリ例等申出アリ  
 タル場合ニハ貴大使ハ「我方トシテ」ハ印度支那ノ防備強化ノ爲軍  
 事的措置ヲ進ムルコトカ當面ノ重大問題ニシテ且ツ之ト並行シテ  
 大東亞共同宣言ノ精神ニ則リ原住民ノ民族的獨立ノ要請ヲ支拂ス  
 ル方針ナルヲ以テ此際直ニ本件ヲ取上タルコト恐ラク困難ナリト  
 思考スルモ御申出ノ次第ハ本國政府ニ取次クヘシトノ趣旨ニテ  
 應酬セラレ度

(東京二〇九)

電信寫

S 1.7.0.0 - 54 479

極秘

政務局

第一局長

電信寫

電信課長

大東亞省

昭和二〇 五三二三五 暗 南京 三月九日二〇〇〇發  
 五三二三〇 本省 十日〇五四五發  
 五三二三二  
 五三二三三  
 五三二三一

暹光大東亞大使

谷 大使

館長符紙

(佛印處理ニ關スル件)

本使發在支各大使館等場所長、漢口、天津、海口宛電報  
 合第二九號(緊急)  
 佛印ニ武力ヲ行使スル場合ニ於ケル在支佈言意、軍隊及補給ノ處理  
 (發動ハ總草ヨリ實地草側ニ對シ確報アルヲ待チ之ヲ行フモノトス  
 ニ付テハ現地草側ト緊密ニ連絡シ委細草圖ニ依リ承認ノ上所要ノ處  
 應ヲ執ラレ度キモ從來ノ威性圖ニ對スル取扱派リト共ルモノアルニ  
 依リ特ニ左ノ諸點ニ留意アリ度

東京四三七

S 1.7.0.0 - 54 480



極秘

電信寫

外交官、領事官憲ニ對スル職務執行停止ハ中國側ヲシテ通告セシムルコト

右ニ關シ當館ヨリ國民政府ニ對シ中國側諸關係各機關ニ對シ訓令發出方申入ルル豫定ナリ

之ニ並行シ貴方ヨリモ佛國側ニ對シ自今職務執行ヲ認メ得サル旨告知ノコト

行シ佛國國民ノ保護ニ關スル日華官憲トノ連絡ハ從來ノ領事等ヲテ代表的ニ之ニ當ラシメ差支ナシ同中立國ニ於ル利益代表ハ之認メス通告後モ等務所出入ハ阻止スル要ナキモ該國領事ヲ禁止スルコト勿論トス

二日佛印諸條ハ戰爭狀態ニ非ラサルヲ以テ成ルヘク禮便ニ取扱ヒ歐國又ハ斷交國ニ對スル場合ノ如ク等務所ノ封印、公文書ノ押收、等務所又ハ住宅ノ電話切斷、食糧燃料等ノ配給停止、資金凍結、頂金引出制限等ヲ爲ササルコト但シ該國側ハ成ルヘク自發的ニ供

大東亞省

極秘

電信寫

出セシム)及暗號ノ使用ハ禁止シ平文電報及郵便ハ檢閲ノ上許可スルコト向原則トシテ從來ノ居所ニ引續キ居住セザメ外出ハ自由トスルモ佛國人以外ノ者トノ接觸ハ自衛セシムルコトトシ石ニ違背スル場合ハ監視付ノ抑留ヲ行フコトアルヘキ旨豫メ通告ノコト

三、外交官及領事官ニ對スル措置ハ總テ支那側ニ於テ實施ノ範圍ヲ收ルモノトシ又一般佛國人ニ對シテハ特別ノ措置ハ收ラサルモ防諜ニ關シテハ注意ナキヲ知スルモノトス但シ本件信障ヲ理由トシテ收ラニ誅報容疑者等ノ一齊檢査等ハ行ハサルコト

四、一般佛國人財産ハ敵國人、敵處トシテ取扱ハス從來通りトスルコト

尤モ若干ノ難益(防諜上絕對必要ナルモノニ限ル)ニ付テハ該國上ノ必要ヨリ軍ノ監督下ニ置カラルコトアルヘシ

五、大王勅諭係ニハ佛人經營ノモノ多キ處難用ノ摩察ヲ起サズ候旨注意スルコト

大東亞省

極秘

電信寫

總領事館ニ轉報セリ  
大使館等事務所ヨリ事務所所在地總領事館ニ夫々轉報アリ度  
大臣へ轉電セリ

大東亞省

東京四三七

S 1.7.0.0 - 64

483

REEL No. A-1216

極秘

大東亞省

昭和二〇 五三二五八 暗 南京 三月十日一八四〇發  
本省 十一日〇〇〇〇着

董光大東亞大臣

谷 大 便

(館長符號發)

(廣州灣接收ニ關スル件)

本便發廣東宛電報

第七號(察察)

大臣發員百宛館長符號第一號ニ關シ

本十日陳代理主席ニ對シ奉復ヨリ「國民政府ニ於テ廣州灣ノ行政權  
接收方希望セラルル場合帝國ハ欣然之ニ應スル意圖ニシテ兵ノ際ニ  
ハ行政權行使ノ爲事前ニ我方ト緊密ニ連絡ノ上廣東省ヨリ廣州灣ニ  
派員ヲ行ハレ度」旨申入レ置キタルヲ以テ準備完了次第國民政府側  
ヨリ我方ニ對シ何分ノ甲出アルコトト存セララルル處本指圖ヲ實行ス

電信寫

東京四三七

B 1.7.0.0 - 54

484

電信寫

ルニ當リ軍ニ於テ一時廣州灣租借地ヲ管理スル方針ニハ依然變更ナ  
キモ形式的ニハ一旦帝國ニ於テ接收スル行政權ヲ更メテ國民政府ニ  
移管スルノ趣前ハ取ラサルモノナルニ付御含ミ置キアリ度  
總算ト打合濟  
大臣ヘ專電セリ

大東亞省

東京 四三七

S 1.7.0.0 - 54 485

REEL No. A-1216

次長  
次官

陸軍部陸軍參謀長

安南國等ノ獨立ニ關スル指導ニ關シ受諾ノ場合ニハ適當ノ特ニ指  
示セサルモ拒否シタル場合ニハ左ノ通指導スル如ク取計ヒアリ

一 各國ハ我カ内面的指導ノ下ニ武力發動直後一割モ速カニ自發的

ニ獨立ヲ宣言セシム

宣言文ニハ各國ノ特性ニ應ジ適宜左ノ内容ヲ包含セシム

但シ宣言文ノ一紙ハ夫々我カ方ニ於テ作製發行ス

(1) 保護條約ヲ廢止シテ獨立ヲ恢復シタル事實ヲ闡明スルコト

(2) 大東亞共同宣言ノ趣旨ニ關シ民族意識ヲ昂揚シテ大東亞諸

民族ト共ニ共存共榮ノ實ヲ擧クヘキコト

(3) 獨立完遂ノ爲精力ヲ擧ケテ日本ニ協力スヘキコト

ニ獨立宣言ハ原則トシテ安南國「カ」國次ナ「ル」國ノ順序ニ實

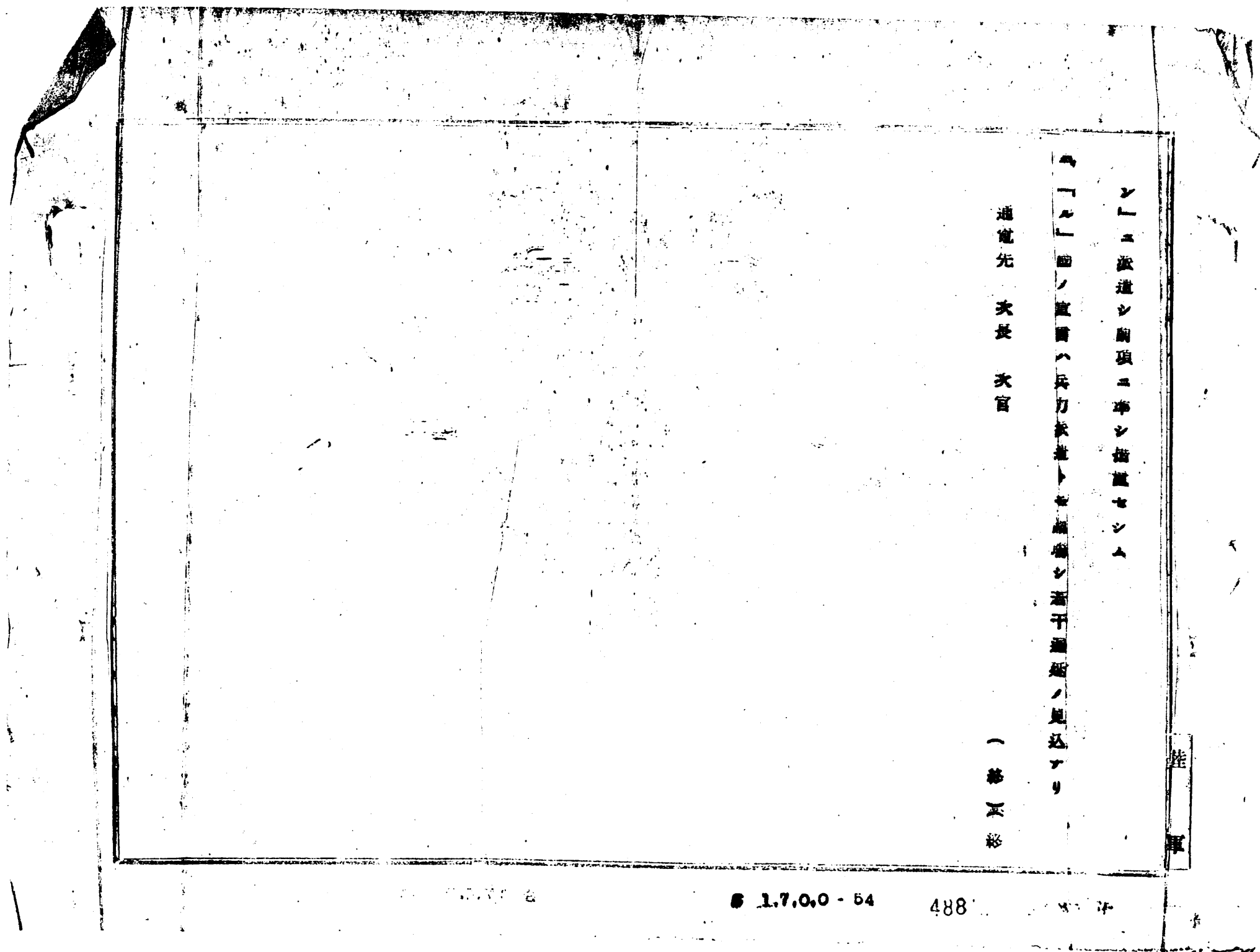
施ス

五 安南國ニ對シテハ本八日陸路横山前參使ヲ「ホエ」ニ派遣ス

同公使ハ發動直後成ルヘク速カニ國至ヲ訪問獨立宣言ノ發表

ヲ監視指導ス

六 「カ」國ニ對シテハ久保田參領等ヲ本島ヨリ再ヒ陸路「ブ」ンベ



「」ニ依道ノ副領ニ事シ格置オシム

「」ニ依ノ置置ハ兵刃表裏トキ無端シテ干瀆無ノ見込アリ

通電先 大長 次官

一 卷 三 終

陸軍

5 1.7.0.0 - 54

488

REEL No. A-1216

